

シリーズ 当別この逸品 その16

町内のこだわりの味をレポートします

社会福祉法人 札幌協働福祉会

当別・高岡アクティビティーセンター

当別産の野菜で漬物に取り組む！



元祖 高岡漬け



右側が工場長の高山さん

本格的な冬を前に、漬物が美味しい季節です。今回は地元の素材を利用した「元祖高岡漬け」について、高岡アクティビティーセンターに工場長の高山正人さんを訪ねました。

高岡の大地は気候、土など野菜の条件には最適ですね。特に大根はとてもみずみずしくて漬物に限らず良い食材です。ここでは40畝の自家畑で南瓜、大根、とうきび、ジャガイモを栽培しています。そのうち大根は10畝、約3000本が収穫されます。4年前から漬物に取り組んでいますが、最初は白菜などの葉物にも挑戦しましたが、虫が付くため、大根とごぼうの漬物に落ち着きました。もちろん健康にも配慮し無農薬、無添加です。

塩加減、天候など微妙なさじ加減で大きく味が変わる漬物造りは、とても奥が深いものです。今年は猛暑でどこの大根も品質が低下したようですが、調理の前に黒いスジなどがいないか、よく吟味しています。最初は1本まま付け込んでみましたが、買う人の立場で考えて小さくしました。1口大に切り分けてから、塩と重石を使い、1週間下漬けします。次に染み出した汁を棄てて、ビールや洋からし、かつおだし、醤油などで6種類の味付け(本漬け

をします。3週間程で食べごろとなり、1日約80パックを製造しています。醤油やビールをベースの味にしたものや、はと麦、玄米、甘草^{かんぞう}など14種類のお茶で調製したものなど6種類の味と、醤油味のごぼうを生産しています。無添加ですが、日持ちをよくするため酢を使い、冷蔵で3週間は保存できます。

元祖高岡漬けは、高岡の自慢の大根をもっと食べてもらおうと命名しています。ただし、大根も季節もののため、冷蔵庫や土に埋めて保管しても毎年6月から8月頃は品薄になるため、この時期だけは函館方面の大根を使う場合があります。これが悩みですね。

高岡アクティビティーセンターは障害者の生活介護や就労継続支援事業として受け入れている障害を持つ方々が畑を耕し、工場では漬物のほかジャムも製造しています。皆が時間をかけて丁寧な仕事をし、働く喜びも感じています。この地の自慢の野菜が付加価値のある商品として多くの方に味わってほしいです。

▼問合せ 当別・高岡アクティビティーセンター
高岡 1813 番地 1 (旧高岡小学校) ☎ 25 - 3661
さわやか大根 (160g 入)、他 5 種類 210 円～ 295 円
町内ではフィーカ、つじの蔵、日本海で販売中

ふれあい倉庫「赤れんが6号」

■ ふれあい倉庫情報

【カルチャーホール】

クリスマス交流サロン

～ まちの森のちょっといい話～

▼日時 12月23日(木)

開場 13時30分、開演 14時～

▼内容 講演「東洋医学から学ぶこころの健康」

▼講師 横山 瑞生氏

▼主催 NPO 法人まちの森

▼問合せ・チケット取扱い

当別町地域活動支援センター (☎ 22 - 2685)

当別アンサンブルファミリー

～ ウィンター煉瓦コンサートⅡ～

▼日時 12月26日(日) 開演 15時

▼内容 ディズニーや歌謡曲など聴きなじみのある曲を中心に演奏する楽しいミニコンサートです。

▼入場料 無料

▼問合せ 鰐渕 (☎ 090 - 8707 - 9686)

ポイントカード会

▼日時 1月2日(日)・3日(月) 13時～17時

▼内容 毎年好評の「現金つかみどり」を開催します。今年も当選本数の増量とポイントカード会加盟店による福袋の販売があります。

▼問合せ 商工会 (☎ 23 - 2447)

年末年始について

【ふれあい倉庫】

◆休館日 12月30日(木)～平成23年1月5日(水)

※1月2、3日はポイントカード会のため、開館します。

【FIKA】

◆休館日 12月31日(金)～平成23年1月5日(水)

JR当別駅前南口駐車場について

駐車場はふれあい倉庫開館時間の9時から19時まで使用できます。夜間の駐車は除雪作業などに支障が出ますので、ご遠慮願います。

冬期間も好評につき発売中

加工品(SPF豚のソーセージやいも団子汁セット)およびロイズのチョコレート、岩出山のかりんとう、宇和島のみかんや飲む酢など取り扱っております。

▼問合せ ふれあい倉庫 (☎ 27 - 6600)

商工課 (☎ 23 - 3129)

FIKA (☎ 27 - 5388)

続

町長の日記

平成22年11月19日(金)

今日、宅急便で宇和島から秋の陽射しと南海の潮風で甘い香りを乗せたみかんが届いた。私が青年の頃は、四国のみかん農家はとても景気が良かった。

然し、外国からオレンジやグレープフルーツが輸入されるようになってから、日本のみかん農家は、激変して後継者も少なくなり、今では急斜面の段畑のみかん栽培は、高齢者にはきつい仕事になっているのを宇和島市へ行って来られた議員さんや農業委員さんや町民の有志の方々が目のあたりにされて「宇和島みかんを支援しよう」と当別町140年にちなんで140本ほどみかんの木のオーナーになった。

私も妻と2人で、2本のオーナーになったので早生のみかんが少し送られてきた。

こんな日本の“農”を守るささやかな思いが吹き飛ばされそうな事が起きてきた。

政府は突然、主要国と高いレベルの経済連携を進める為に全品目の関税撤廃をしようとするが、このままでは日本の他産業はともかく農業は壊滅する。

現在当別町の農家は、米1俵10,300円、小麦は1俵6,500円ぐらいで農協に売っているが、自由化になると外国産の米が3,400円、小麦が2,700円ぐらいで、国内市場へ入って来ることになるから当別で米や麦を生産する農家は激減し、農業産出額は65億から30億ぐらいに減るだろう。

その上、米麦を生産しなくても当別町では、米を作るための基盤整備事業費(用水路)や麦を作るための貯蔵施設(センター)の負担金を農協や改良区が長期で借金しているから全農家で毎年1億円ぐらい、今後20年間は償還しなければならない。

当別町も農業関係だけでなく一般町民の為に整備した農道や排水機場などを含めて、約2億円ずつ20年間は返済しなければならない。

私の父は終戦の時、千島列島で捕虜になって、毎日ライ麦の黒パンばかりだったので「もし生きて日本に帰れたら大農家になって米を食べたい」と祈っていたと云っていた。父が53歳で事故死したのち、私は庭に「米一千俵出荷記念」に千島桜を植えた。

父は今どう思っているだろう。

当別町長泉亭俊孝